interview

仕事の現場から Vol.17

卒業生に仕事についての喜びや、獨大生に向けてのメッセージを語っていただきます。

「夢に向かって頑張る人に寄り添う」それが私の仕事です。

学校法人 小山学園　広報本部
専門学校 東京テクニカルカレッジ入学相談室　主任
長谷川 早紀 さん
（17年律卒）

私は現在、小山学園（東京・中野）の広報本部で入学相談室担当として働いています。主な業務は小山学園が運営する東京テクニカルカレッジの広報として、進路に悩む高校生やその保護者の方、高校の先生、夜間コースに入学を考えている社会人の方々に、当校のカリキュラムや魅力、理念などをお伝えすることです。

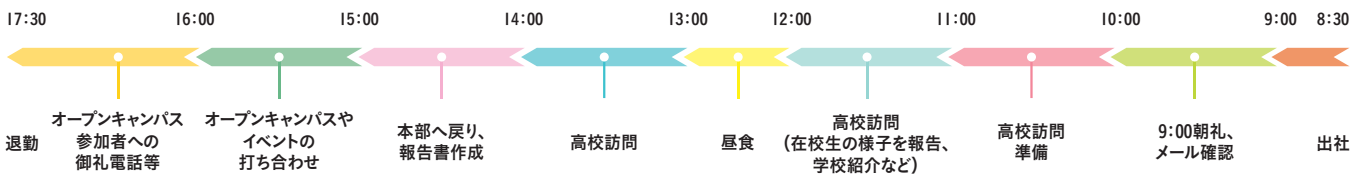
私は「夢を持って頑張る人を応援する仕事がしたい」と考えて学校職員という道を選びましたが、最初からこの職業を目指していたわけではありません。獨協大学に入学した当初は、高校時代の先生に憧れて教師を志していました。生徒一人ひとりに寄り添ってくれる先生で、その方のようになりたいと教職課程の授業も教育実習も、全力で臨みました。

しかし教師について知っていくうちに、少しずつ考え方が変わり始めました。私は人を引っ張っていくこと、怒ることが苦手です。もちろん中にはそんな先生もいるのでしょうが、私は自分を鑑みて、もっと自分に合ったやり方で夢を目指す人や頑張っている人を応援したいと考えるようになりました。そして選んだ道が、学生たちを陰ながら支え、夢の手助けをする学校職員でした。これなら教師とは違うやり方で、憧れていた先生のように学生たちを支え、力になれると思ったのです。

就職したての頃は、学生時代に見ていた学務職員とは違う広報の仕事に、戸惑うこともありました。しかし今は、我が校がどんな学校で、どんな理念を持っているのか、いかに力になれるのかを学生に伝え、道を選ぶ手助けをする、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

私も今年で就職6年目、主任という立場になり、後輩や部下もいます。そこで改めて感じているのは、自信を持つことの大切さです。後輩たちの前では「先輩」として振る舞わなければいけませんし、時には授業の時間を借りて高校生の皆さんの前に立ち、就職や進学についてガイダンスをすることもあります。その時、私は「小山学園の顔」としてそこに立っていますし、生徒の皆さんにとっては「先生」と同じです。そうした場に臨む度に、自分の役割を自覚します。〝不安そうな態度ではダメだ！〟と、自信を呼び起こすのです。

大学で必死になって取り組んできたゼミや教職課程の勉強、サークル活動などの経験は、そんな私の自信を支える礎になっています。獨協大学では法学部のたくさんのレポートに取り組みつつ教職課程の勉強をし、アメリカンフットボール部でマネージャーの仕事に励みながら、体育会本部では財務局長と副委員長まで務めました。レポートや授業などで学んだ考えを整理してわかりやすく伝えるスキルは、仕事でも大いに生かされていますし、大変でも全力で取り組んだ経験が、今の私を支えてくれています。

学生時代から自分が興味を持てる物事に熱意をもって挑戦することは経験と自信を生み、大きな財産となります。どうか学生の皆さんも、〝自分はこれを学生時代に頑張りました〟と将来胸を張って言えるくらい、何かに取り組んでみてください。その経験はきっとあなたの支えになってくれます。

長谷川さんのある一日のタイムスケジュール